

## 評価委員会総合評価

研究課題名：沖縄地方（島嶼部）における荒天時地動ノイズの特性調査と震源自動決定処理への応用

評価委員

委員長：隈健一

委員：齊藤和雄、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、尾瀬智昭、青梨和正、高薮出、鈴木修、橋本徹夫、山里平、堤之智、岡部来

評価年月日：平成30年2月8日

### 1. 委員評価総合評価（判定の理由は、委員所見の欄に記載）

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

### 2. 総合所見

ノイズ問題は地球科学だけの分野に限らず、電磁波や音波など多くの工学的分野で数多くの実用的なノイズ除去の研究が行われている。研究目標であるノイズ低減フィルターの提言にはならなかったが、沖縄地方各地点における地震計のノイズ特性を系統的に調査しまとめたことは、大きな研究成果と言える。

当初期待した自動震源決定の改善にはつながらなかったが、沖縄地方の地震計ノイズの特性について一定の知見が得られた。現用の自動震源決定手法の妥当性を追認するだけにとどまったが、研究を進めた意義はあったと考える。

本研究は当初想定していた成果は得られなかったが、一定の成果が得られた。また、研究目標の設定は概ね妥当、研究の効率性は概ね効率的であったと判断できる。

加えて以下のような指摘事項もあり、後年度の他研究等に活かすことを期待する。

- ・本研究における経験を今後の気象庁全体の業務に活かしていただきたい。
- ・発表が少ないが、成果をドキュメントとして残すことは大切なので、終了後であっても発表や寄稿等を行うようにしていただきたい。